





## 概要

- ・ラクロスの起源は、もともと北米のインディアン達が自分たちの神との繋がりを深める儀式の一環としておこなったり、部族間の争いの平和的解決に用いられたものである。彼らがおこなうこの競技は白人からは、「スティックボール」と呼ばれていた。これを見たフランス系の移民がスポーツとして採り入れたものである。
- ・ラクロスの語源は、スティックがキリスト教の僧侶が持つ杖(Crosse=クロス)に似ていたことからフランス語の冠詞(La)を付けて「Lacrosse=ラクロス」と呼ぶようになった。その後、ラクロスはヨーロッパに渡り、イギリスで女子ラクロスが盛んになり、スポーツとして次第に広まり発展していったラクロスは、1908年のロンドン、1928年のアムステルダム、1932年のロサンゼルス、1948年のロンドンでのオリンピックの公開競技としておこなわれるようになった。
- ・我が国では、1986年に慶應義塾大学に日本初のラクロスチームが創立されて以来、国際交流をおこないつつプレイヤーの自主運営によって活動してきたが、1987年に「日本ラクロス協会」、1988年に「日本学生ラクロス連盟」、1990年に「日本社会人ラクロス連盟」が設立された。
- ・ラクロスは、男女別に協議があり、そのルール、フィールドの寸法、用具とも男子と女子で異なる。
- ・女子の場合は、プレイヤーは1チーム10人、フィールドは110m×60m内で競技をおこなう。
- ・男子の場合は、プレイヤーは1チーム10人、フィールドは110m×60m内で競技をおこなう。

## 寸法

### 【女子の場合】

- ・フィールドは長方形とし、サイドラインの長さ110m、エンドラインの長さ60mを原則とする。

### 【男子の場合】

- ・フィールドは長方形とし、サイドラインの長さ110m、エンドラインの長さ60mを原則とする。

## 勾配

- ・グラウンドの勾配は、特に規定はないが表面排水を考慮し、できるだけ平坦に仕上げる。
- ・勾配は、0.5%程度を標準とし、0.3~1.0%の範囲で決定することが多い。クレイ系舗装の場合は、上限勾配を0.7%程度とすることが望ましい。
- ・他の競技と兼用するフィールドの場合は、他の競技のルールも考慮して決定する。

## 方位

- ・ゴールポストの相対する方位(長軸方向)は、プレーヤーが西日避けるために南北方向が望ましい。
- ・メインの観客席は、太陽を背にするように西側に設置することが望ましい。

## 附属品

### 【女子の場合】

- ・ゴールは木製または金属製の2本の垂直なポストからなり、地上でクロスバーにより繋がっているもので、ポストの間隔、クロスバーの高さ共に内法で1.83mとする。
- ・ゴールポストがクロスバーの上に突き出たり、クロスバーがゴールポストから横に突き出したりしてはならない。
- ・ポスト、クロスバー共に3.81~5cmの角柱または直径3.81~5cmの円柱でなければならない。
- ・ゴールネットは、網目が4cm以下で、後方に三角形に伸びた型のものである。ポスト、クロスバーおよび後方の地面にしっかりと固定する。

### 【男子の場合】

- ・ゴールは2本の垂直なポストからなり、地上でクロスバーにより繋がっているもので、ポストの間隔、クロスバーの高さは共に内法で1.83mとする。
- ・ポスト、クロスバーのパイプの直径は3.81cm以下で、後方に三角形に伸びた型のものである。ポスト、クロスバーおよび後方の地面にしっかりと固定する。後方に固定する位置は、ゴールラインの中心から2.13mの位置とする。